第３３回　　西宮市子ども・子育て会議

会　　議　　録

■日　時：令和３年(2021年)11月１日(月)

■場　所：西宮市役所本庁舎８階　813会議室

会議次第

議　　事
（１）会長及び副会長の選任について
（２）子ども・子育て会議の概要と確認部会の設置について
（３）子ども・子育て支援プランの評価方法について
（４）西宮市幼児教育・保育ビジョン（素案）について

報告事項
（１）子ども家庭総合支援拠点の設置について

会議概要

〔午後５時31分　開会〕

議事　（１）会長及び副会長の選任について

・委員の互選により、橋本委員が会長に、前田委員及び曽田委員が副会長に就任することとなった。

議事　（２）子ども・子育て会議の概要と確認部会の設置について

○委　員　今まで評価検討ワーキンググループ（以下「評価検討ＷＧ」。）でしていたことを、子ども・子育て会議の全体会で実施すると決まったのはなぜかを教えてほしい。結構中身の濃い話を２回に分けて毎回すごくしっかりと話合いをしてきた場だったと思うので、そのあたりが全体会では薄くなってしまわないのかがすごく気になる。
●事務局　今回新しい委員もいらっしゃるので、少し評価検討ＷＧの話をすると、計画の評価自体はこの子ども・子育て会議で行っているが、より掘り下げて議論を深めるために一部の委員で構成する評価検討ＷＧ――評価のことを審議する部会みたいなものを設けていた。それを今年度からは廃止して、この全体会で審議したいという提案である。
　理由は、資料集２ページの下段をご覧いただくと、現在の子ども・子育て支援プランは令和６年度までの計画であり、令和７年度からは新しい計画をスタートさせていかなければならない。令和７年度以降の計画については５年度から、具体的にどういった構成にしていくのか、今の計画でどういったことが達成できて達成できなかったのか、新しい課題は何なのかということを議論しながら計画をつくっていく。まさにその議論の中でこれまでの計画の評価が生きてくることになるが、委員ご指摘のとおり、これまでは少数でやっていたのでかなり深い議論ができていた一方で、ＷＧに参加していない委員さんにはなかなかフィードバックが難しいという課題があった。やはり全員が、課題も、できていること・できていないことも共通認識を持った上で計画の策定作業を進め

ていきたいとの狙いから全体会議で評価をやっていきたいと考えている。
　もちろん今年度評価を進めていく中で、やはり少人数で一旦集まってもう少し掘り下げてから全体会で議論すべきなどのご意見が出るようであれば、また運営方法は改めたいと思っているが、まずは全員で共有していくことを１つの目的として進めていきたいと考えている。
○委　員　理解した。中身の深い議論も必要だと思うが、みんなが同じように意見を出していただく場も必要だと思うので、今年度はそれでいいのではないかと思う。
○会　長　ＰＤＣＡサイクルの評価から次の計画につなげていくところで全ての委員の方に関わっていただくということ。

・審議の結果、子ども・子育て支援プランの評価については、評価検討ＷＧを設置せず、子ども・子育て会議全体会で行うこととなった。
・審議の結果、確認部会を設置することとなった。また、確認部会の委員は、木田委員、栫井委員、藤原委員、前田委員が務めることとなった。

議事　（３）子ども・子育て支援プランの評価方法について

○委　員　イメージがぴんと来なかったが、事務局で評価をした自己評価に基づいて子ども・子育て会議の中で評価をし、意見を言って提言する。そこではみんなからの意見や提言などを受けて意見交換はするが、そこで点数をつけたりするわけではないということか。
●事務局　今のご質問は、太枠で囲っているＢとかＣの評価を委員それぞれが行うのか、事務局が行うのかという趣旨かと思う。
　この自己評価については、全て事務局で一括して行う。どういった基準で自己評価をＡ～Ｄでつけたのかが「自己評価」欄の右側の「評価理由」欄――この資料はあくまでイメージなので連動はしていないが、こういう視点でＢ評価としてつけた、Ｃ評価としてつけたというようなものが「評価理由」欄に来るような資料を作りたいと思っている。それを見ていただき、かつ、「課題や今後の方向性」欄では、事務局としてその事業における今後の課題、もしくは展望などを記載しているので、それらの資料をご覧の上ご意見をいただく。
　基本的には事務局の自己評価という位置づけにしているので、このＢ評価を、みんなでＣ評価にするか、Ａ評価にするか、そういった審議ではなくて、あくまでも評価するにあたっての参考指標と捉えていただいたらよいかと考えている。
○委　員　今の７ページの事務局が作った評価表を基に子ども・子育て会議で審議するというイメージで良いか。
●事務局　実は、昨年度までＡ～Ｄの評価欄がなく、文章がびっしり書いてあるような資料だった。昨年度の子ども・子育て会議で、資料を読み解かないと、どこまでこの事業が進んでいるのか、停滞しているのか、他市と比べて実施されているのかが非常に分かりにくいというご意見をいただいたので、各事業の進捗度を見える化したものだとい

うご認識をいただければと思う。
○委　員　意味は分かったが、自己評価は総合評価で判断されるということになっているので、１つずつの施策については、委員は「評価理由」や「課題や今後の方向性」で事務局が出されたものを見るだけになるのか。
●事務局　評価の進め方だが、まず、数十ページにわたる評価資料を皆さんに見ていただきながら、会議当日は事務局から、全部の事業について説明はできないが、幾つかを取り上げながら事業の説明を行う。その中で、８つの重点施策のうち６つをこの子ども・子育て会議で評価していただくので、イメージとしては、次の第34回で６つのうち半分を、第35回で残りの３つを評価していただきたいと思う。その評価にあたっても、１つずつを全員で確認していくのではなく、委員は様々な関係団体から、また、それぞれの専門分野からご出席いただいているので、それぞれの視点で気になったところや、これは課題だというところ、これはよくできている、そういったご意見をいただければと思う。
○会　長　イメージが難しいと思うが、昨年と同様、かなりのページ数の資料が出てくると思う。委員の方々には、申し訳ないが、事前に目を通して確認していただき、それぞれのご専門のお立場から忌憚のないご意見をいただく、そういう評価の方法となる。今回から全体になって、さらにいろいろな目線で見ていただけるかと思うので、非常に濃い内容になってくるかと思うが、それぞれがこれは課題だと思われる点に関してご発言をいただく、そういう方法だと思うが、いかがか。
○委　員　この方法で評価してみる。
○委　員　昨年度出された評価が反映されて改善できているか、ここのところが一番大事だと思うが、今回の資料ではそのあたりが見えない。この課題は去年どういう話がされて、それがどう変わったのか、この一番知りたいと思う部分が今回の方法だとさっと行ってしまいそうで、そのあたりをどのように埋めていけるのかが心配。また資料が増えることになるかもしれないが、大事だったところを先に委員に資料でお配りして、見ていただいた上でこの会議に出席するほうがいいのではないかと思うが、いかがか。
●事務局　この子ども・子育て会議でのご意見に対して事務局としてどう改善していくのか、反映させていくのかがまさに計画のＰＤＣＡサイクルの根幹だと思っている。昨年度出されたご意見について、本日は資料として添付していないが、別の形で、ご意見と、その反対側に対応状況を、市としての考えを一覧表にして資料としてお配りしようと考えている。
○会　長　何年か継続して評価をしてきた、昨年度の評価がどのように施策に生かされているのかというところを土台に評価することがこの子ども・子育て会議でできるようになってきているため、今おっしゃった資料は大変重要なものだと思うので、準備をお願いする。

議事　（４）西宮市幼児教育・保育ビジョン（素案）について

○委　員　ワーキングチーム（以下「ＷＴ」。）で携わってくださった方々には、いろいろな制約がある中でここまでまとめていただいて感謝する。西宮の子ども・子育て支援プランなどが大事にしてきた子供中心にというところが最初の部分にすごく大きく取り上げられていて、西宮はそれを大事にしていることがよく分かるようになっていて、とてもうれしい。

このビジョンを基にみんなで質を担保していけて、西宮のいろいろな保育施設、子供に関わる全ての人がこれを中心に取り組んでいけるようになればどんなにすばらしいかと思ったが、このビジョンを浸透させるためにどんな感じで下ろしていこうと思っていらっしゃるのか、もし予定があれば教えていただきたい。

●事務局　ＷＴの中でもそうした話題があり、具体的にいつ、どういう形でやろうというところまでは詰めれていない。各園や団体の研修における読本としても活用していただくことは言うまでもないが、ワークショップ的なものを行う計画もしながら検討していくとの意見もあったので、そういう形に向けて団体とも協議していければと思う。

○委　員　多分今からだとは思うが、例えば西宮市で保育士になった人はまずこれを見るとか、これがみんなの手元にあって、みんなでワークショップなどができればいいかなと感じる。文言も皆さんですごく検討されて、矢印一本にしても、真っすぐではない矢印の意味や、らせんの意味やきっとそれぞれの思いがあるし、受け止め方も違うと思う。「見守る」という言葉一つとっても、見守るとはどういうことなのかとか、遊びが見つからない子に対して働きかけるときの働きかけとはどういうことなのかとか、子供にとって邪魔にならない声かけとはどんなものかとか、本当に深くいろいろな話ができると思うし、何も間違いはないし、正解もないと思うが、そういうことを意見交換する場がすごく大事になると思うので、施設や立場を超えてそんな話ができればいいなと思う。せっかくここまで作ったのだから、作って出来ておしまいではなくて、絶対に利用していただきたいし、これを通して子供中心に話ができるということが一番かと思うので、ぜひよろしくお願いしたい。

もう一つ、10ページの「遊び」を通じた育ちについてのイメージ図で、「遊びの広がりや深まりへ」のその先の生きる力や学ぶ力というか、もっともっと先にもつながっていくというあたりもあればいいなと思ったので、またご検討いただきたい。

●事務局　このイメージは、遊び自体で全てが完結ということではなく、遊びが最終的に生きる力につながっていくということの流れになるかと思うので、検討したいと思う。

○委　員　今からどう活用するかが本当に重要なことだと思うので、●●委員が言われたように、西宮市私立保育協会では新人研修にぜひ取り入れてやっていこうと思う。

○委　員　まとめられたビジョンを実現することが重要なので、その点では17ページからのことが肝心だと思う。例えば18ページの「保育者が学び続け、成長していける場の提供」の３段落目に「研修を受講しやすい環境づくりを行います」とあるが、具体的に市が考えられていることがあるのか、逆に、受ける側の保育者が望んでおられることがあるのか、お聞きしたい。

と言うのは、これを読んだときに思ったが、小学校、中学校、高校の教員免許の講習が2023年度に廃止される。これも最初は教員の質を上げるという話から始まったものだが、受講料が３万円ぐらいかかるとか、更新の２年前の間に30時間以上の講習を受けないといけないので、学校の先生は忙しいのに時間が取られるとか、結局意味があるのか分からないという話があって、これを思い出した。そのため、せっかくするのであれば意味のあるものにしていただきたいと思うので、教員免許講習のようにならないように何かあるのかなと思った。

●事務局　研修を受講しやすい環境づくりとして、まだ具体的に詰めたところはないが、それぞれが意欲を持って子供たちの姿を見ながらもっとこういうことを学びたいと思っていただけるような講義内容や、研修の時間帯なども工夫しながら参加しやすいように取り組んでいきたいと思う。

○委　員　これまで策定に携わった委員の方々には非常に感謝している。内容を拝見して気になる点が２つあった。

まず、一つ一つは丁寧に押さえないといけないことを書かれているが、ここから西宮らしさはどこから出てくるのか。

具体的に私が今施設を担当しているところで言えば、市外から転入されている方もいるので、新しいコミュニティの場が欲しかったり、市の特色であったり、状況に応じたところをどこで深掘りしていけるのかということが１つ。それと、西宮ならではのものとしてどういうことをテーマに持ってやっていくのかが大事だと思う。

私どもの施設の職員もワークショップに出させていただいて、みんなが一緒になって西宮の教育・保育をしているんだ、それはほかの方も同じように思っているんだということを共感し合いながらコミュニケーションが図れたのは非常に大きな機会だったし、その中で課題も一緒に考えるんだということもあったので、そのようなコミュニケーションの場や出会いの場をぜひビジョンの実現に向けて持っていただくことが大事だと思う。

それと、これは政策局が担当になるのか、市のどこがリードをしてこの実現に向けて歩んでいくのかということも具体的に考えていただけたらと思う。

深掘りすること、どこかがリードしていくこと、この２点を感じたこととしてお伝えする。

●事務局　このビジョンの作成に至るまでは少なくとも政策局が担っている中で、このビジョンがほかの市と比べて特色があるところを申し上げると、他市では、子供に対する愛情とか自然を中心に、遊びを通して学ぶということを主眼に置いた内容になっていたり、愛着や情緒といった遊びの重要性を中心に作られているところが大きな特徴である一方で、西宮市においては、遊びはもちろん、親子関係を特色あるものとしているところは特徴の一つかと思う。コラムで書いている西宮の自然を通じてというところや、このビジョンの作成にあたって、幼児教育・保育に関わる団体が、その垣根を超えて協力して一丸となって行おうというきっかけがあったことも大きな特徴と考えている。

また、実際の現場で携わっていただくためのコミュニケーションづくり、あるいは、参加する環境づくりなどをどの部署が担っていくのかは今後の検討課題ではあるが、こ

ども支援局、教育委員会とも協議しながら、実現に向けて頑張っていきたいと思う。
　また、ワークショップなどを実現していくために、実際の現場で携わっていただくためのコミュニケーションづくり、あるいは、参加する環境づくりなどをどの部署が担っていくのかは今後の課題ではあるが、こども支援局、教育委員会とも協議していきながら、ぜひとも実現に向けて頑張っていきたいと思う。
○委　員　「ゆっくり・じっくり、親子になろう」というメッセージは確かに非常に印象的な部分であり、それをどう実現していけるのかが大きな鍵にもなっているかと思うので、これが出来たから終わりではなくて、これからどうしていくかというところを大事に進んでいただけたらと思う。
○委　員　私の団体は転勤族の親子のサークルであり、西宮市に転入してくる方が非常に多いので、このビジョンの中に保護者同士のつながりを温かく見守っていただける保育者というところがあればいいなと思う。幼稚園ではそうでもないが、保育園ではなかなかそういう場がなくて小学校に至ってしまうという例も見てきているし、転勤してきて気持ちが落ちてしまう保護者もすごく多く見られるので、保護者同士のつながりということもすごく大切な部分かと思う。
○会　長　どうしても保育者対保護者になりがちだが、保護者同士がつながり合うということも支援になるので、そういうポイントを加えることは、いかがか。
●事務局　保護者同士の交流というワードは入れてはいるが、その関わりが分かるよう工夫できればと思う。
○委　員　先生と共に輪になるというようなものがあればいいかなと思った。
○会　長　幼児教育・保育の場がそういう場にもつながっていくということは重要だと思う。貴重な意見、感謝する。
○委　員　私は青少年愛護協議会からの参加であるが、地域という視点から見たら、「はじめに」に「保育者をはじめとして、保護者、地域の皆様などすべての方に向けて作成したもの」とあって、最後のほうにも「地域行事への参加」とあるが、真ん中に「地域」がほとんどないように思う。幼稚園、保育所という一つの固まりというか、そういう施設の中での話のように思えてしまうが、私たちの活動の中でも親子で参加することで地域との関わりが多くなっているので、そのあたりも書いてあればと思う。
○会　長　子供対保護者ではなく、地域の中で親子が育っていくという視点かと思う。
○委　員　例えば高齢者の施設で一緒に遊ぶというやり方もあるだろうし、また、たこ揚げや餅つきをする場には親子でどんどん参加してくるが、地域の人間からすれば、幼児教育という感覚はない。子供たちと一緒に遊ぼうというところから自然と出てくる親子関係や地域とのつながりがもっとあればいいなと思う
○委　員　今の●●委員と●●委員のお話の関連だが、地域の行事を通して保護者同士のつながりもできるし、地域とのつながりもできるので、私も経験があるが、地域で育ててもらっている、保護者同士のつながりの中で助けてもらっているという感覚がすごくあったので、そのあたりをうまく表現できたらよりいいかなと思うが、いかがか。
　地域のお祭りや、地域で催されるまちたびウォークだったり、そのようなもので幼稚園や保育所で会う顔ではない顔に会えたときはすごく楽しいし、保育所や幼稚園では見

ないお父さんやおうちの方に出会えることはつながりにもなるかと思う。
●事務局　地域への参画ということは随所に出てくる。「はじめに」でも地域の皆様に向けて作成したものや、12ページでも輪の広がりの中で地域に続くような表現をしているので、最終的にそのようなところに及んでいけばという意味合いではあるが、あくまでこのビジョン自体が保育者の子供への関わりや保護者との関わりを出発点にしているので、具体的に何々行事という書き方よりは、そのようなところから広がっていくことを念頭に置いたものである。あくまでも幼児教育・保育の在り方を出発点にしたものであるので、地域が控え目になっているのは確かだが、ご理解いただきたい。
○会　長　幼児教育・保育に携わっている保育者や施設の先生方は地域の行事もよくご存じなので、実際そういうところにつなげていくことはやっておられると思う。このビジョンを活用するときに、こういうところでも親子が育っているよねというふうに話が広がっていったらいいなと願うとともに、私たちも親子は本当にいろいろな場で育っているということを忘れずに確認しながら広げていければと思う。
　私もこのビジョンの作成に携わったが、これがどう使われていくのかが楽しみで、先ほど●●委員がおっしゃったように正解はないので、これを基にいろいろなディスカッションをしながら、もっといい保育とはどういうことかという話合いが広がっていってほしい、そういうものになってほしいという願いを持って作った。この後どう使われていくかもしっかり見届けていきたいと思う。
○委　員　私は民生委員から出ており、日頃は地域活動をしている。先ほど●●委員から地域が抜けているとの指摘があったが、私も全くそのように思う。学問や教育あるいは保育だけで子供が育つわけではなくて、子供は地域で育つと言われている。地域の自然の中で学んだり、地域の高齢者やいろいろな人と接してどんどん成長していくが、そういうことがこのビジョンでは抜けている。
　15ページのコラム①の「西宮市の豊かな自然の中での健やかな育ち」、ビジョンではこのように書いているが、最近は保育園児が地域の中を散策したり、広場で遊んだりという姿は本当に少ない。日光浴をさせるように子供たちを台車に乗せて、それを先生が押して歩いておられるところはたまに見かけるが、昔は子供を歩かせて散策しながら体づくりをしていた。私のところはお寺だが、お寺の広場に来て、黄色くなったイチョウの葉を拾わせたりなどいろいろなことをしていたが、今ではそういうのも見かけなくなって、私のところのお寺にも来なくなった。それが現実じゃないかと思うが、このビジョンは現実に沿っていない。
　私が一番感じるのは、このビジョンにはいいことばかり書いており、これが本当に実現できることを私も望んでいる。私は学校の見守り隊を朝晩しているので、保育所の様子も見ているが、朝は保育所にお母さんお父さんが車で送りつけて、帰りの時間になると車でお迎えに来る。そのような今の状況でここに書いてあるようなことが果たしてどこで行われるのかと思う。ビジョンは大事だが、ビジョンに沿った保育をしていけないと、それこそ何のための子ども・子育て会議なのかが私は分からない。
○会　長　民生委員というお立場から貴重なご意見をいただいた。いつも民生委員の方に参加していただいて、その立場から非常に貴重な意見もたくさんいただいている。こ

の子ども・子育て会議で次回から評価が始まるが、いろいろな施策・事業があって、次回の資料を見ていただくと恐らく驚かれると思う。この幼児教育・保育ビジョンというのはその中のほんの一部で、幼児教育・保育施設の立場からどのように保育の質を高めていくかということを非常に掘り下げて詳しく書いているというもの。もちろん幼児教育・保育の課題はたくさんあるが、その課題をどのように乗り越えていけるか、どのように質を高めていけるか、その共通理解を持って進めていくために作ったものなので、これをどう生かしていい幼児教育・保育につなげていくかは、私たち西宮市の幼児教育・保育に携わる者が一体となって進めていけたらいいなと思うので、ぜひそこにお力添えをいただけたら大変ありがたい。また貴重なご意見をお聞かせいただきたい。

議事　（５）子ども家庭総合支援拠点の設置について

○副会長　今、虐待が明らかな場合は「189（イチハヤク）」に電話すればすぐ児童相談所につながるようになっているが、子育てひろばのスタッフが気になる親子がいた場合、例えばこの方は少しノイローゼぎみかなとか、手が出てしまっているなというときは、子ども家庭総合支援拠点にご連絡すれば、アウトリーチで専門の方に来ていただいて話を聞いてもらうことはできるのか。

つまり、気になる親子は市役所には来ない。市役所に来ることはものすごくハードルが高く、むしろ自分が気づかない悩みなどを抱えている場合が多い。それは専門の人が見れば分かるし、顔つきが少し厳しくなっているとか子供に手が出てしまうとか、そのような人をアウトリーチで見つけてもらうことがすごく大事である。このような人に適切な支援をするときにはこの子ども家庭総合支援拠点が重要な役割を果たすと思う。子育て支援をしている人たちに、気になる親子がいればこの子ども家庭総合支援拠点に連絡してねと、親子と関係は切らずにキープしておいて、信頼関係を築いて話を聞ける状態になったら専門スタッフが行くなど、そのようなことは構想の中にあるのか。

●事務局　児童虐待案件だけではなく、気になるご家庭についても子ども家庭総合支援拠点にご連絡をいただいたら、もちろんアウトリーチも含めて対応したいと思う。子供家庭支援課は、西宮市の要保護児童対策協議会の事務局もしており、今現在51の機関に参画していただいているため、そのような関係機関の中で常に情報共有あるいは連携をしながら虐待対応、支援対応を行っているので、関係機関への周知もこれからしていきたいと思う。

○委　員　虐待は保育園では見つけやすいので私たちも注視しているが、例えば顔から上の傷で、その理由をお母さんに聞いても分からない傷が多い場合は、市と連携を取ってやっているが、ある市では、保育園から通報があったことをお母さんに言った途端、そのお母さんは、自分が虐待していると疑われているということで保育園にも心をシャットダウンしてしまい、通報されたと聞いたことによって支援ができなくなったところもあるので、そのあたりは西宮市の場合はどのようにされるか、お伺いする。

●事務局　保育所から連絡があれば、たちまちこちらから親御さんにアプローチをして、虐待通報があったというような対応はしていない。ただ、親御さんが認めないケースや

お子さんが話さないケースなどいろいろなケースがあるかと思うので、そのあたりの対応については、拠点の職員と保育所としっかり協議をしながら慎重に進めたいと思う。
○委　員　他市に比べて人員が少ないとお聞きした。しかも、先ほどのアウトリーチの件のように気になる家庭を含めて対応するとなると結構範囲が広くなるかと思うが、具体的に何人ぐらいを目安に増やしていこうと言う考えか。
●事務局　子ども家庭総合支援拠点の標準配置人員はまず満たしていきたいと考えている。資料14ページにあるが、子ども家庭支援員を常時５名、心理担当支援員を常時２名、虐待対応専門員を、令和３年度であれば上乗せを含めて常時10名、まずはこの人数をそろえていきたいと考えている。あわせて、先ほど申し上げたとおり、保健師、精神保健福祉士など多様な職種の職員を配置することにより、人員体制だけではなく機能も強化していければと考えている。
○委　員　19ページの児童家庭相談回数が平成30年度から急激に増えているのは、例えば相談をするならここだ、というような広報がすごくされていたからなのか、何か理由があるなら教えてほしい。
　また、20ページの虐待種別の推移の表では、平成28年度から29年度にかけて急に減っているが、これは何か対策をされたからなのか、ここも理由を教えてほしい。
●事務局　１点目の平成30年度以降、児童家庭相談回数が急激に増えているのは、上の児童家庭相談件数の推移を見ていただくと、相談件数が増えているので、相談に対応する回数もそれに応じて単純に増えているという状況である。
　２点目の平成29年度に大きく件数が落ちているのは、説明が欠けており申し訳ない。実は、統計の取り方が平成29年度から変わり、平成28年度までは、その年に対応したケース数の全てを計上することになっていたが、平成29年度からはその年度に新規で受け付けたケースの件数になった。そのため、ここで件数が少なくなっている。
○委　員　ということは、新規で受け付けていない継続案件は、グラフには出ていないけれども上乗せされているのか。
●事務局　ここでは継続案件の件数までは分からないが、ここ数年は要保護児童対策協議会で例年1,700件から1,800件ぐらいの児童を管理している。
○委　員　支援拠点として全てがここに集中してしまうと、とてもじゃないけれどもどれだけ人がいても足りなくなると思うので、連携強化のあたりでそれぞれの学校園や民生委員の力を借りることで、子ども家庭総合支援拠点が全てを把握しているけれども、それぞれの見守りの対応でいけるところは見守っていくなり連携を取っていくなりして、役割分担や切れ目のない連携の仕方をこれからも考えていただけたらと思う。
●事務局　今委員がおっしゃった形が理想だと私どもも正直思っている。今まではなかなかできなかったが、何かが起こったときではなく、何もないときに学校なり保育園なりにこちらから出向いて顔が見える関係をつくった中で対応をしていきたいと思う。
〔午後７時49分　閉会〕

【委員出席者名簿　16 名】

所属団体・役職名等	氏　　名
西宮市青少年愛護協議会 夙川地区青少年愛護協議会 会長	奥　光男
西宮市私立幼稚園連合会 会長	栫井 政裕
西宮市地域自立支援協議会こども部会 部会長	神谷　宣
株式会社チャイルドハート 代表取締役	木田 聖子
西宮労働者福祉協議会 特別理事	久城 直美
公募委員	後藤 希実子
神戸女子大学健康福祉学部 准教授	曽田 里美
社会福祉法人神戸ＹＭＣＡ福祉会	谷川　尚
関西学院大学教育学部 教授	橋本 祐子
西宮市私立保育協会 会長	藤原 和子
甲南大学マネジメント創造学部 教授	前田 正子
転勤族ママ＆キッズ探検隊 in 西宮 代表	松村 真弓
西宮市ＰＴＡ協議会 副会長	松本 祐子
西宮市民生委員・児童委員会 理事	諸戸 大護
親と子のほっとスペース 「たんぽっぽひろば」 施設長	安田 知津子
公募委員	山本　樹

【事務局出席者名簿　15 名】

所属・役職	氏　　名
こども支援局長	時井 一成
子供支援総括室長	小島　徹
子供支援総括室参事(計画推進担当)	塚本 英樹
子育て支援部長	緒方　剛
子供家庭支援課長	三桝 浩一
子育て事業部長	伊藤　隆
子育て事業部参事（保育指導担当）	堤下 康子
こども未来部長	大神 順一
子育て総合センター所長	海部　康
政策局参与(就学前児童政策担当)	石井 輝昌
政策局 政策総括室 政策推進課担当課長（政策企画等）	中前 智光
【教育委員会】	
教育次長	佐々木 理
教育委員会参与(教育政策推進担当)	岡崎 州祐
学校教育部長	漁　修生
学校支援部 学校改革課長	河内　真